

G. オブザーバーとして

田村 直樹

1. はじめに

筆者は神戸大学大学院でマーケティングを専攻する院生である。自分の論文での方法論をエスノメソドロジーに依拠し、研究を進めてきた。縁あって、徳島大学の榎田研究室に共同研究者として参加させていただくことになった。関西では（おそらく西日本）、エスノメソドロジーの講義が殆どなく、頭を悩ませていたが、榎田研究室との出会いのおかげで、社会学、エスノメソドロジーについての理解が深まった。

ゼミでは、単にテキストを輪読するという事に限らず、フィールドに出て、インタビューやビデオ撮影といった調査方法を身につけるということが主眼におかれている。

筆者が参加したのは2004年10月からの後期であるが、この約4ヶ月を振り返りつつ、オブザーバーとして参加した感想等をこの紙面をお借りして、述べさせていただくことになった。

2. 講義について

後期の講義では、テキストとして上野直樹(1999)『仕事の中での学習』東京大学出版会を使用した。学部生にとっては、かなり高度な学術書にもかかわらず、榎田ゼミのメンバーは、丁寧にレジメを作り毎週の議論に参加されていることに、驚きと頼もしさを感じた。

上野(1999)は、道具と人とのインタラクションを扱っているものだ。ゼミメンバーは、それぞれの問題関心に沿って、テキストを読みこなし、自分のインタビューデータと参照しながら研究を進めていった。こうした、テキストのみに頼るのではなく、フィールド調査の結果と参照しながら理解を深めていくという方針に、感心させられた。

そうしているうちに、自分でもフィールド調査がしたいと思うようになった。そして、幸運なことにその機会を12月15日に得ることになったのである。

3. 調査実習について

2004年12月15日、筆者は榎田研究室のメンバーとともに、Z園における現地調査に参加させていただいた。筆者以外のメンバーは夏にも調査を経験しており、その手際の良さに心強く思った。カメラの扱い、カメラ設置場所の配慮、ビデオテープが混乱しないようにインデックスをこまめに記入等、といった一連の作業がチームワークよく進められた。

そしてメンバーは、自分たちの調査に協力してもらっている方々ととてもフレンドリーに接しており、その光景が自分にとって新鮮なものであった。撮影は、調査対象者をカメラで延々と追いかけていくというものだ。これまでの筆者の考えであれば、このようにカメラが追尾するという事に、恐らく調査者は困惑するのではないかと。しかしながら、この撮影現場は筆者が考えているようなものではなかった。Z園の方々と榎田研究室のメンバーとの、いわゆる信頼関係を見たように思う。

撮影後、メンバーは、調査に協力いただいた方々にお礼を申し上げ、再度手際よく機材を片付けて研究室に戻った。実はこれからが、メンバーにとって力仕事になるのだ。収集した貴重なデータをパソコンで管理し、画像データをメンバーで共有しつつ、報告書を仕

上げねばならないのである。

4. データセッション

2005年1月7日、8日はゼミ旅行となった。場所は小豆島。筆者もそれに参加させて頂くことになった。その7日というのが、メンバーが撮影したデータをどのように報告書で扱うかを議論する、データセッションとなった。

それぞれのメンバーのテーマに関する画像データを、全員で議論するというものである。こうしたデータセッションというのも、筆者にとって初めての経験であった。

画像データという情報の、その多さに驚かされた。ビデオを利用することによって、何度も繰り返し再生できるので、ほんの数秒の出来事の中に膨大な情報を入手できるのである。メンバーは、そうした数秒の出来事の中から貴重な情報を議論していくのである。撮影時には、調査者も気づかなかった、ほんの些細な被調査者の言動を捉えることができる。

そうした一瞬の相互行為を見逃さず、それを研究していくという緻密さ、それはエスノメソドロジーが持つ特徴の一つであることを実感させられた。

5. ゼミ旅行

データセッションの翌日は、小豆島観光が待っていた。小豆島のユニークさを再発見できたとともに、メンバー間の絆がいつそう深まったように思う。ゼミ旅行幹事の正島さんの観光計画は絶妙で、どこにいても楽しさを満喫できるというものであった。

世界一距離の短い海峡に困惑し（これでもギネス？）、サルが放し飼いにされている自然公園で驚き（サルが足元にいっぱい）、ケーブル山頂から魔よけの小皿を溪谷に投げる快感、讃岐うどんを楽しみ（歯ごたえがいい）、二十四の瞳記念館で小豆島の自然と日本の時代性に思いをさせ、オリーブ館でお土産を買う等。筆者にとって、本当に忘れられない思い出となった。

6. おわりに

最後にこの場をお借りして、謝辞を述べさせていただこうと思う。樫田先生には、エスノメソドロジーだけに関わらず、社会学について広くご教授いただいた。そして調査実習でお世話になった、正島さん、林さん、佐々木さん、原田さん、田中さん。卒論ゼミの吉野さん、中本さんには筆者の研究に貴重なコメントを頂いた。樫田研究室の瀬尾さんには各種事務手続きをしていただいた。

筆者の研究人生のなかで、忘れることのできない貴重な4ヶ月であったということを書いて、締めくくりにしたい。



【ブランコに乗る榎田先生 自然公園にて（2005.1.8）】



【二十四の瞳記念館にて（2005.1.8）】

徳島大学総合科学部社会学研究室報告 既刊（国立国会図書館等所蔵）

- | | | |
|---|---|------------|
| 1 | エスノメソドロジーとその周辺
ー平成9年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 1998年3月発行 |
| 2 | ラジオスタジオの相互行為分析
ー平成9年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版)ー | 1998年10月発行 |
| 3 | エスノメソドロジーと福祉・医療・性
ー平成10年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 1999年2月発行 |
| 4 | 障害者スポーツにおける相互行為分析
ー平成11年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版)ー | 2000年2月発行 |
| 5 | 日常生活の諸相
ー平成11年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2000年2月発行 |
| 6 | 現代社会の探究
ー平成12年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2001年2月発行 |
| 7 | インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版) | 2003年2月発行 |
| 8 | インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版) | 2003年9月発行 |
| 9 | 社会学の窓ードラマティックな日常生活ー
ー平成15年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2004年2月発行 |

義肢・装具のエスノメソドロジー

発行日 2005年2月14日

編集 榎田美雄

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1丁目1番地

(088) 656-9308 E-mail:Kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/index.html>

発行 徳島大学総合科学部社会学研究室

印刷・製本 平成16年度徳島大学総合科学部榎田地域調査実習報告書発行プロジェクト
